

四半期報告書

(第63期第2四半期)

ユニ・チャーム株式会社

四 半 期 報 告 書

- 1 本書は四半期報告書を金融商品取引法第27条の30の2に規定する開示用電子情報処理組織(EDINET)を使用し提出したデータに目次及び頁を付して出力・印刷したものであります。
- 2 本書には、上記の方法により提出した四半期報告書に添付された四半期レビュー報告書及び上記の四半期報告書と同時に提出した確認書を末尾に綴じ込んでおります。

目 次

	頁
【表紙】	1
第一部 【企業情報】	2
第1 【企業の概況】	2
1 【主要な経営指標等の推移】	2
2 【事業の内容】	2
第2 【事業の状況】	3
1 【事業等のリスク】	3
2 【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】	3
3 【経営上の重要な契約等】	6
第3 【提出会社の状況】	7
1 【株式等の状況】	7
2 【役員の状況】	9
第4 【経理の状況】	10
1 【要約四半期連結財務諸表】	11
2 【その他】	31
第二部 【提出会社の保証会社等の情報】	32

四半期レビュー報告書

確認書

【表紙】

【提出書類】	四半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	2022年8月5日
【四半期会計期間】	第63期第2四半期（自 2022年4月1日 至 2022年6月30日）
【会社名】	ユニ・チャーム株式会社
【英訳名】	UNICHARM CORPORATION
【代表者の役職氏名】	代表取締役 社長執行役員 高原 豪久
【本店の所在の場所】	愛媛県四国中央市金生町下分182番地 （上記は登記上の本店所在地であり実際の本社業務は 下記の場所で行っております。） 東京都港区三田三丁目5番27号 住友不動産三田ツインビル西館
【電話番号】	03(3451)5111（代表）
【事務連絡者氏名】	常務執行役員経理財務本部長 島田 弘達
【最寄りの連絡場所】	東京都港区三田三丁目5番27号 住友不動産三田ツインビル西館
【電話番号】	03(3451)5111（代表）
【事務連絡者氏名】	常務執行役員経理財務本部長 島田 弘達
【縦覧に供する場所】	ユニ・チャーム株式会社本社事務所 （東京都港区三田三丁目5番27号 住友不動産三田ツインビル西館） ユニ・チャーム株式会社共振館 （愛媛県四国中央市金生町下分131番地） ユニ・チャーム株式会社大阪事業所 （大阪府大阪市北区中之島三丁目2番18号 住友中之島ビル） 株式会社東京証券取引所 （東京都中央区日本橋兜町2番1号）

第一部【企業情報】

第1【企業の概況】

1【主要な経営指標等の推移】

回次	第62期 第2四半期 連結累計期間	第63期 第2四半期 連結累計期間	第62期
会計期間	自 2021年1月1日 至 2021年6月30日	自 2022年1月1日 至 2022年6月30日	自 2021年1月1日 至 2021年12月31日
売上高 (第2四半期連結会計期間) (百万円)	376,960 (194,946)	421,614 (217,240)	782,723
税引前四半期(当期)利益 (百万円)	64,756	56,372	121,977
親会社の所有者に帰属する 四半期(当期)利益 (第2四半期連結会計期間) (百万円)	39,963 (19,858)	31,764 (14,937)	72,745
親会社の所有者に帰属する 四半期(当期)包括利益 (百万円)	55,952	82,383	97,670
親会社の所有者に帰属する持分 (百万円)	524,536	627,929	557,639
資産合計 (百万円)	940,833	1,109,536	987,655
基本的1株当たり 四半期(当期)利益 (第2四半期連結会計期間) (円)	66.77 (33.20)	53.26 (25.04)	121.78
希薄化後1株当たり 四半期(当期)利益 (円)	66.71	53.25	121.69
親会社所有者帰属持分比率 (%)	55.8	56.6	56.5
営業活動による キャッシュ・フロー (百万円)	61,581	49,446	105,253
投資活動による キャッシュ・フロー (百万円)	△26,144	△4,541	△79,837
財務活動による キャッシュ・フロー (百万円)	△23,703	△3,154	△45,180
現金及び現金同等物の四半期末 (期末)残高 (百万円)	215,534	242,040	187,547

(注) 1. 当社は要約四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移につきましては記載しておりません。

2. 上記指標は、国際財務報告基準(IFRS)により作成された要約四半期連結財務諸表及び連結財務諸表に基づいております。

2【事業の内容】

当第2四半期連結累計期間において、当社グループ(当社及び当社の関係会社)において営まれている事業の内容に重要な変更はありません。

また、主要な関係会社についても異動はありません。

第2【事業の状況】

1【事業等のリスク】

当第2四半期連結累計期間において、当四半期報告書に記載した事業の状況、経理の状況等に関する事項のうち、経営者が当社グループ（当社及び連結子会社）の財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況に重要な影響を与える可能性があると認識している主要なリスクの発生または前事業年度の有価証券報告書に記載した「事業等のリスク」について、重要な変更はありません。

また、重要な事象等は存在しておりません。

2【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において判断したものであります。

また、コア営業利益は売上総利益から販売費及び一般管理費を控除した利益であり、IFRSで定義されている指標ではありませんが、当社グループの経常的な事業業績を測る指標として有用な情報であると考えられるため、自主的に開示しております。

(1) 経営成績の状況

当第2四半期連結累計期間（2022年1月1日～2022年6月30日）における当社グループをとりまく経営環境は、ウクライナ情勢などの悪化による地政学リスクの高まりを受け、さらなる資源価格の高騰や、経済制裁の余波などの影響で、インフレーションの加速懸念が強まり、予断を許さない状況が続いております。

海外においては、タイやインド、インドネシアなどの主要参入各国で新型コロナウイルス感染症（以下、COVID-19）による景気の悪化からは持ち直しの動きがみられております。一方でゼロコロナ政策を掲げる中国では、一時的なロックダウンの影響で景気の減速傾向が続いておりましたが、徐々に回復の兆しが見えております。そのような中、当社商品は生活必需品であることから安定供給に向けて取り組んでまいりました。

国内においては、景気の持ち直しの動きが続く中、高付加価値商品の需要を喚起するための新価値提案を継続的に実施し、市場シェアの拡大に努めてまいりました。

このような経営環境の中、当社グループは、“世界中の全ての人々のために、快適と感動と喜びを与えるような、世界初・世界No.1の商品とサービスを提供しつづけます”の基本方針に基づき、独自の不織布加工・成形技術と消費者ニーズを捉えた商品の開発に努め、世界中の人々が平等で不自由なく、その人らしさを尊重し、やさしさを包み支え合う、心つながる豊かな社会である「共生社会」=Social Inclusionの実現に向けて取り組んでまいりました。

この結果、当第2四半期連結累計期間の業績は、売上高421,614百万円（前年同四半期比11.8%増）、コア営業利益55,421百万円（前年同四半期比10.3%減）、税引前四半期利益56,372百万円（前年同四半期比12.9%減）、四半期利益36,625百万円（前年同四半期比19.9%減）、親会社の所有者に帰属する四半期利益31,764百万円（前年同四半期比20.5%減）となりました。

セグメントの業績を示すと次のとおりであります。

① パーソナルケア

● ウェルネスケア関連商品

海外においては、日本以上のスピードで高齢化が進み、大人用排泄ケア用品の対象人口が多い中国では、現地のニーズに合った新商品を発売し、積極的なマーケティング投資により、大人用排泄ケア用品の認知拡大と普及促進に取り組んでまいりました。大人用排泄ケア用品の需要が高まっているタイ、インドネシア、ベトナム、マレーシアといった東南アジア地域では、商品ラインアップの拡充と、日本で確立したケアモデルの普及促進を図ってまいりました。

高齢者人口の増加により拡大が続く国内市場においては、COVID-19禍の生活環境に慣れてきたことや、ワクチン接種が進んだことなどもあり、市場が回復基調へ転じました。そのような中、健康寿命の延伸に繋がる軽度・中度商品を中心に幅広い商品ラインアップの拡充により、安定的な成長を実現いたしました。

また、マスクの使用が日常的に定着したことで、安心・安全の面から日本メーカー製のマスクの需要が高まる中、『超快適』、『超立体』両ブランドの安定供給を進め、市場シェアの拡大に努めてまいりました。

感染対策としてマスクが欠かせなくなった一方、口元や表情が見えず、コミュニケーションに不安を抱えている方に向けては、ウイルス飛沫を対策しながら、口元や顔の表情が視認できる『unicharm 顔がみえマスク』を発売し、全ての人々が平等で不自由なく暮らせる「共生社会」=Social Inclusionの実現に向けて取り組んでまいりました。

今後は日本だけではなく世界的にも同様に安心・安全の面からマスクの需要の高まりが見込まれることからマスクの海外展開を強化し、さらなる成長に向けて取り組んでまいります。

●フェミニンケア関連商品

中国においては、一部地域で一時的にCOVID-19の拡大によるロックダウンなどがあり、供給面では若干影響を受けましたが、安定供給に向けて取り組み、需要を満たしてまいりました。若年層から品質の高さとデザインのかわいらしさに対して引き続き高いご支持をいただき、継続的な新価値提案を実施した結果、ショーツ型生理用ナプキンや、オーガニックコットン素材の生理用ナプキンなどを中心に引き続き成長を実現いたしました。また、販売エリアや、取り扱い店舗数の拡大、eコマースにおける新プラットフォームの活用による販売強化などにも取り組んでまいりました。タイ、インドネシア、ベトナムといった東南アジア地域においても、清涼感のあるつけ心地を実現したクールナプキンなどの高付加価値商品が好調に推移し、安定的な成長を実現いたしました。また、中東では、現地の習慣を捉えた、オリーブオイルを配合した新商品などの販売や、積極的なマーケティング投資によりサウジアラビア国内販売に加え、サウジアラビアから近隣中東諸国への輸出も進めた結果、高い成長を実現いたしました。

対象人口が減少傾向の国内においては、健康意識と安心志向が高まる中、女性のライフスタイルに合わせた高付加価値商品展開や、SNSなどを活用した消費者とのコミュニケーションでブランド価値の向上に努めた結果、高い成長を実現いたしました。

●ベビーケア関連商品

COVID-19の拡大の影響で、市場の二極化が進んでいたタイにおいては、2018年に買収したDSG (Cayman) Ltd. とのシナジーを活かし、幅広いお客様のニーズに応えてまいりました。また、同様にCOVID-19による景気の悪化から持ち直し市場の回復が進む中、昨年末からの価値転嫁によってコストアップを吸収し、成長を実現いたしました。新興国のなかでも紙おむつの普及率が未だ低いインドにおいては、インド北部の工場再稼働と既存工場の生産増強、近隣諸国からの輸入でパンツ型紙おむつの普及促進を図りながら販売エリアと市場シェアの回復に努めた結果、高い成長を実現いたしました。ロックダウンの影響や、少子化の進行、ローカル企業の台頭などによって、様々な変化がみられる中国では、日本製需要の減退の中、収益性の高い中国製プレミアム商品へのシフトを加速させるために在庫調整した結果、売上高は伸び悩みましたが、eコマースチャネルやベビー専門店を中心に高付加価値商品である中国製『ムーニー』ブランドの販売強化に取り組むなど、多様化する消費者ニーズに商品と販売チャネルの両面で応えながら収益性の改善に努めてまいりました。しかしながら、高収益商品へのシフトに関わるコスト増、資源価格高騰による製造原価や、物流費などの増加により、減益となりました。

少子化が進み、市場が縮小傾向の国内においては、『ムーニー』や『ナチュラル ムーニー』ブランドなどの高付加価値商品を含めた幅広い商品ラインアップで笑顔あふれる育児生活の実現に取り組み、ブランド価値の向上に努めた結果、安定的な成長を実現いたしました。

●Kireiケア関連商品

物理的な美しさや清潔さだけでなく、人の内面まで包含する美しさをあえて表音文字であるアルファベットで「Kirei」と表記することで、日本だけでなく、全世界に広い概念と共通の表現として発信し、「すべての人々が安心・安全でKireiな生活が送れる環境を目指す」という思いを込めて、ウェルネスケア関連商品とベビーケア関連商品のワイプス、化粧用コットンを統合し、「Kireiケア関連商品」といたしました。

国内においては、ウェットティッシュ『シルコット』ブランドの安定供給と、市場シェアの拡大に努めた結果、安定的な成長を実現いたしました。今後は日本だけではなく世界的にも同様に衛生意識の高まりと使用の定着が見込まれることから、世界中の全ての人々が安心・安全でKireiな生活を送ることができる環境を目指してまいります。

この結果、パーソナルケアの売上高は360,983百万円（前年同四半期比10.9%増）、セグメント利益（コア営業利益）は48,228百万円（前年同四半期比11.5%減）となりました。

②ペットケア

国内においては、一昨年からのCOVID-19拡大の影響で、在宅時間が増えたことなどによりペットの飼育頭数の増加に加え、ペットとの接触機会が増えております。そのような中、ペットフードにおいては、猫用では健康志向の高まりに応えた商品などで、消費者の満足度向上に努めてまいりました。また、犬用では犬種ごとの身体の特徴や年齢に合わせた商品や、新コンセプト商品である筋肉の健康を維持するカラダづくりフードなどの販売を強化してまいりました。また、ペットトイレタリーにおいては、犬用ペットシートや猫用システムトイレなどが堅調に推移した結果、安定的な成長を実現いたしました。

北米市場においても、COVID-19拡大の影響で、ペットの飼育頭数とペットとの接触機会が増える環境下、一部商

品で、昨今の急激なコストアップに対応した販売価格としましたが、日本の技術を搭載し、これまで市場になかった新たなコンセプトの猫ウェットタイプ副食や、高品質な犬用トイレタリーシートなどの販売が好調に推移し、高い成長と収益性の改善を実現いたしました。

この結果、ペットケアの売上高は56,962百万円（前年同四半期比17.2%増）、セグメント利益（コア営業利益）は7,013百万円（前年同四半期比0.9%増）となりました。

③その他

不織布・吸収体の加工・成形技術を活かした業務用商品分野において、産業用資材を中心に販売を進めてまいりました。

この結果、その他の売上高は3,668百万円（前年同四半期比21.9%増）、セグメント利益（コア営業利益）は180百万円（前年同四半期比43.7%減）となりました。

(2) 財政状態の状況

(資産)

当第2四半期連結会計期間末における資産合計は1,109,536百万円（前連結会計年度比12.3%増）となりました。主な増加は、現金及び現金同等物54,493百万円、棚卸資産24,653百万円、有形固定資産23,013百万円、無形資産8,615百万円、未収消費税等のその他の流動資産5,938百万円によるものです。

(負債)

当第2四半期連結会計期間末における負債合計は392,732百万円（前連結会計年度比11.5%増）となりました。主な増加は、借入金16,563百万円、仕入債務及びその他の債務12,896百万円、リース負債等のその他の金融負債4,884百万円、未払費用等のその他の流動負債4,129百万円によるものです。

(資本)

当第2四半期連結会計期間末における資本合計は716,804百万円（前連結会計年度比12.8%増）となりました。主な増加は、在外営業活動体の為替換算差額等のその他の資本の構成要素51,129百万円、親会社の所有者に帰属する四半期利益31,764百万円、非支配持分11,076百万円、主な減少は、親会社の所有者への配当金の支払い10,731百万円によるものです。

(親会社所有者帰属持分比率)

当第2四半期連結会計期間末における親会社所有者帰属持分比率は56.6%となりました。

(3) キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結会計期間末における現金及び現金同等物の残高は242,040百万円となり、前連結会計年度末に比べ54,493百万円増加しております。当第2四半期連結累計期間における各キャッシュ・フローの状況は次のとおりであります。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動により得られたキャッシュ・フローは、49,446百万円の収入（前年同四半期は、61,581百万円の収入）となりました。主な収入は、税引前四半期利益、減価償却費及び償却費、主な支出は、法人所得税の支払によるものです。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動により使用したキャッシュ・フローは、4,541百万円の支出（前年同四半期は、26,144百万円の支出）となりました。主な収入は、純損益を通じて公正価値で測定する金融資産の売却及び償還による収入、主な支出は、有形固定資産及び無形資産の取得による支出によるものです。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動により使用したキャッシュ・フローは、3,154百万円の支出（前年同四半期は、23,703百万円の支出）となりました。主な収入は、短期借入金の純増額、長期借入れによる収入、主な支出は、親会社の所有者への配当金支払額、自己株式の取得による支出、リース負債の返済による支出によるものです。

(4) 会計上の見積り及び当該見積りに用いた仮定

前事業年度の有価証券報告書に記載した「経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析」中の会計上の見積り及び当該見積りに用いた仮定の記載について重要な変更はありません。

(5) 経営方針・経営戦略等

当第2四半期連結累計期間において、当社グループが定めている経営方針・経営戦略等について重要な変更はありません。

(6) 優先的に対処すべき事業上及び財務上の課題

当第2四半期連結累計期間において、当社グループが優先的に対処すべき事業上及び財務上の課題について重要な変更及び新たに生じた課題はありません。

(7) 財務及び事業の方針の決定を支配する者の在り方に関する基本方針

当第2四半期連結累計期間において、当社の財務及び事業の方針の決定を支配する者の在り方に関する基本方針について重要な変更はありません。

(8) 研究開発活動

当第2四半期連結累計期間の研究開発費の総額は、4,111百万円であります。

なお、当第2四半期連結累計期間において、研究開発活動の状況に重要な変更はありません。

3【経営上の重要な契約等】

当第2四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等は、行われておりません。

第3【提出会社の状況】

1【株式等の状況】

(1)【株式の総数等】

①【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	827,779,092
計	827,779,092

②【発行済株式】

種類	第2四半期会計期間末 現在発行数(株) (2022年6月30日)	提出日現在発行数(株) (2022年8月5日)	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融商品 取引業協会名	内容
普通株式	620,834,319	620,834,319	東京証券取引所 (プライム市場)	単元株式数は100 株であります。
計	620,834,319	620,834,319	—	—

(2)【新株予約権等の状況】

①【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

②【その他の新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (百万円)	資本金残高 (百万円)	資本準備金 増減額 (百万円)	資本準備金 残高 (百万円)
2022年4月1日～ 2022年6月30日	—	620,834,319	—	15,993	—	18,591

(5) 【大株主の状況】

2022年6月30日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (千株)	発行済株式（自己株式を除く。）の 総数に対する所有 株式数の割合 (%)
ユニテック(株)	愛媛県四国中央市川之江町4087-24	154,957	25.99
日本マスタートラスト信託銀行 (株) (信託口)	東京都港区浜松町2丁目11番3号	70,101	11.76
高原基金(株)	東京都港区白金台3丁目2-34	28,080	4.71
(株)日本カストディ銀行 (信託口)	東京都中央区晴海1丁目8-12	24,265	4.07
(株)伊予銀行 (常任代理人 (株)日本カストディ 銀行)	愛媛県松山市南堀端町1 (東京都中央区晴海1丁目8番12号)	15,300	2.57
日本生命保険(相) (常任代理人 日本マスタートラス ト信託銀行(株))	東京都千代田区丸の内1丁目6番6号 (東京都港区浜松町2丁目11番3号)	12,189	2.04
日本マスタートラスト信託銀行 (株) (退職給付信託口・広島銀行 口)	東京都港区浜松町2丁目11番3号	12,101	2.03
BNYMSANV RE MIL RE FIRST SENTIER INVESTORS ICVC - STEWART INVESTORS ASIA PACIFIC LEADERS SUSTAINABILITY FUND (常任代理人 (株)三菱UFJ銀行)	FINSBURY CIRCUS HOUSE, 15 FINSBURY CIRCUS LONDON EC2M 7EB (東京都千代田区丸の内2丁目7-1)	10,893	1.83
THE BANK OF NEW YORK MELLON AS DEPOSITARY BANK FOR DEPOSITARY RECEIPT HOLDERS (常任代理人 (株)みずほ銀行決済 営業部)	240 GREENWICH STREET NEW YORK, NEW YORK 10286 U. S. A. (東京都港区港南2丁目15-1 品川イン ターシティA棟)	9,515	1.60
NORTHERN TRUST CO. (AVFC) SUB A/C AMERICAN CLIENTS (常任代理人 香港上海銀行東京支 店)	50 BANK STREET CANARY WHARF LONDON E14 5NT, UK (東京都中央区日本橋3丁目11-1)	7,132	1.20
計	—	344,531	57.79

(注) 当社は自己株式を24,616千株保有しておりますが、議決権がないため上記の大株主より除外しております。

(6) 【議決権の状況】

① 【発行済株式】

2022年6月30日現在

区分	株式数 (株)	議決権の数 (個)	内容
無議決権株式	—	—	—
議決権制限株式 (自己株式等)	—	—	—
議決権制限株式 (その他)	—	—	—
完全議決権株式 (自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 24,616,000	—	権利関係に何ら限定のない 当社における標準となる株 式
完全議決権株式 (その他)	普通株式 596,100,500	5,961,005	同上
単元未満株式	普通株式 117,819	—	同上
発行済株式総数	620,834,319	—	—
総株主の議決権	—	5,961,005	—

(注) 「単元未満株式」欄の普通株式には、当社所有の自己株式43株が含まれております。

② 【自己株式等】

2022年6月30日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式総数 に対する所有株 式数の割合 (%)
(自己保有株式) ユニ・チャーム(株)	愛媛県四国中央市金生 町下分182番地	24,616,000	—	24,616,000	3.97
計	—	24,616,000	—	24,616,000	3.97

2 【役員の状況】

前事業年度の有価証券報告書の提出日後、当四半期累計期間における役員の異動はありません。

第4【経理の状況】

1 要約四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の要約四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（2007年内閣府令第64号。以下「四半期連結財務諸表規則」という。）第93条の規定により、国際会計基準第34号「期中財務報告」（以下「IAS第34号」という。）に準拠して作成しております。

2 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、当第2四半期連結会計期間（2022年4月1日～2022年6月30日）及び当第2四半期連結累計期間（2022年1月1日～2022年6月30日）に係る要約四半期連結財務諸表について、PwCあらた有限責任監査法人による四半期レビューを受けております。

1【要約四半期連結財務諸表】

(1)【要約四半期連結財政状態計算書】

(単位：百万円)

	注記	前連結会計年度 (2021年12月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2022年6月30日)
資産			
流動資産			
現金及び現金同等物		187,547	242,040
売上債権及びその他の債権		129,367	132,858
棚卸資産		89,811	114,464
その他の金融資産	9	119,752	127,758
その他の流動資産		21,266	27,203
流動資産合計		547,743	644,324
非流動資産			
有形固定資産		271,689	294,702
無形資産		85,407	94,022
繰延税金資産		13,911	14,793
持分法で会計処理されている投資		1,029	688
その他の金融資産	9	65,789	58,648
その他の非流動資産		2,086	2,359
非流動資産合計		439,912	465,212
資産合計		987,655	1,109,536

(単位：百万円)

	注記	前連結会計年度 (2021年12月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2022年6月30日)
負債及び資本			
負債			
流動負債			
仕入債務及びその他の債務		167,241	180,137
借入金	9	33,882	37,835
未払法人所得税		13,639	13,133
その他の金融負債	9	5,455	6,721
その他の流動負債		54,233	58,362
流動負債合計		274,450	296,189
非流動負債			
借入金	9	4,432	17,042
繰延税金負債		24,285	25,793
退職給付に係る負債		11,973	12,838
その他の金融負債	9	32,727	36,345
その他の非流動負債		4,349	4,525
非流動負債合計		77,767	96,543
負債合計		352,217	392,732
資本			
親会社の所有者に帰属する持分			
資本金		15,993	15,993
資本剰余金		14,801	14,489
利益剰余金		599,946	620,323
自己株式	10	△68,646	△69,550
その他の資本の構成要素	11	△4,454	46,675
親会社の所有者に帰属する持分合計		557,639	627,929
非支配持分		77,799	88,875
資本合計		635,438	716,804
負債及び資本合計		987,655	1,109,536

(2) 【要約四半期連結損益計算書及び要約四半期連結包括利益計算書】

【要約四半期連結損益計算書】

【第2四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	注記	前第2四半期連結累計期間 (自 2021年1月1日 至 2021年6月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2022年1月1日 至 2022年6月30日)
売上高	5, 6	376, 960	421, 614
売上原価		△221, 885	△264, 458
売上総利益		155, 075	157, 156
販売費及び一般管理費	7	△93, 293	△101, 735
その他の収益		1, 980	536
その他の費用		△1, 279	△1, 635
金融収益		2, 957	4, 737
金融費用		△684	△2, 688
税引前四半期利益		64, 756	56, 372
法人所得税費用		△19, 050	△19, 747
四半期利益		45, 706	36, 625
四半期利益の帰属			
親会社の所有者		39, 963	31, 764
非支配持分		5, 744	4, 861
四半期利益		45, 706	36, 625
親会社の所有者に帰属する1株当たり四半期利益			
基本的1株当たり四半期利益 (円)	8	66. 77	53. 26
希薄化後1株当たり四半期利益 (円)	8	66. 71	53. 25

売上総利益からコア営業利益への調整表

(単位：百万円)

売上総利益	155, 075	157, 156
販売費及び一般管理費	△93, 293	△101, 735
コア営業利益 (※)	61, 783	55, 421

(※) コア営業利益は売上総利益から販売費及び一般管理費を控除した利益であり、IFRSで定義されている指標ではありませんが、当社の取締役会はコア営業利益に基づいて事業セグメントの実績を評価しており、当社グループの経常的な事業業績を測る指標として有用な情報であると考えられるため、要約四半期連結損益計算書及び注記「5. セグメント情報」に自主的に開示しております。

【第2四半期連結会計期間】

(単位：百万円)

	注記	前第2四半期連結会計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年6月30日)	当第2四半期連結会計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年6月30日)
売上高		194,946	217,240
売上原価		△113,910	△136,497
売上総利益		81,036	80,743
販売費及び一般管理費		△50,607	△55,270
その他の収益		122	98
その他の費用		△684	△1,279
金融収益		1,086	2,436
金融費用		△417	△1,134
税引前四半期利益		30,536	25,594
法人所得税費用		△7,907	△8,431
四半期利益		22,629	17,163
四半期利益の帰属			
親会社の所有者		19,858	14,937
非支配持分		2,771	2,226
四半期利益		22,629	17,163
親会社の所有者に帰属する1株当たり四半期利益			
基本的1株当たり四半期利益 (円)	8	33.20	25.04
希薄化後1株当たり四半期利益 (円)	8	33.18	25.04

売上総利益からコア営業利益への調整表

(単位：百万円)

売上総利益	81,036	80,743
販売費及び一般管理費	△50,607	△55,270
コア営業利益 (※)	30,429	25,473

(※) コア営業利益は売上総利益から販売費及び一般管理費を控除した利益であり、IFRSで定義されている指標ではありませんが、当社の取締役会はコア営業利益に基づいて事業セグメントの実績を評価しており、当社グループの経常的な事業業績を測る指標として有用な情報であると考えられるため、要約四半期連結損益計算書及び注記「5. セグメント情報」に自主的に開示しております。

【要約四半期連結包括利益計算書】

【第2四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	注記	前第2四半期連結累計期間 (自 2021年1月1日 至 2021年6月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2022年1月1日 至 2022年6月30日)
四半期利益		45,706	36,625
その他の包括利益 (税引後)			
純損益に組み替えられることのない項目			
その他の包括利益を通じて公正価値で測定する資本性金融資産の純変動		△1,297	△2,057
退職給付に係る負債 (資産) の純額に係る再測定		19	125
小計		△1,279	△1,932
純損益に組み替えられる可能性のある項目			
その他の包括利益を通じて公正価値で測定する負債性金融資産の純変動		1	△20
キャッシュ・フロー・ヘッジの公正価値変動		14	34
在外営業活動体の為替換算差額		21,335	62,829
持分法によるその他の包括利益		6	13
小計		21,355	62,856
その他の包括利益 (税引後) 合計額		20,077	60,924
四半期包括利益合計額		65,783	97,549
四半期包括利益合計額の帰属			
親会社の所有者		55,952	82,383
非支配持分		9,831	15,166
四半期包括利益合計額		65,783	97,549

【第2四半期連結会計期間】

(単位：百万円)

	注記	前第2四半期連結会計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年6月30日)	当第2四半期連結会計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年6月30日)
四半期利益		22,629	17,163
その他の包括利益 (税引後)			
純損益に組み替えられることのない項目			
その他の包括利益を通じて公正価値で測定する資本性金融資産の純変動		△1,485	394
退職給付に係る負債 (資産) の純額に係る再測定		19	159
小計		△1,466	553
純損益に組み替えられる可能性のある項目			
その他の包括利益を通じて公正価値で測定する負債性金融資産の純変動		—	△7
キャッシュ・フロー・ヘッジの公正価値変動		△11	12
在外営業活動体の為替換算差額		88	31,896
持分法によるその他の包括利益		0	8
小計		77	31,910
その他の包括利益 (税引後) 合計額		△1,389	32,462
四半期包括利益合計額		21,240	49,626
四半期包括利益合計額の帰属			
親会社の所有者		17,951	42,082
非支配持分		3,289	7,544
四半期包括利益合計額		21,240	49,626

(3) 【要約四半期連結持分変動計算書】

前第2四半期連結累計期間（自 2021年1月1日 至 2021年6月30日）

（単位：百万円）

	注記	親会社の所有者に帰属する持分						非支配 持分	資本合計
		資本金	資本 剰余金	利益 剰余金	自己株式	その他の 資本の 構成要素	合計		
2021年1月1日残高		15,993	13,208	547,259	△54,572	△28,886	493,002	69,651	562,653
四半期利益		—	—	39,963	—	—	39,963	5,744	45,706
その他の包括利益		—	—	—	—	15,990	15,990	4,087	20,077
四半期包括利益合計		—	—	39,963	—	15,990	55,952	9,831	65,783
自己株式の取得	10	—	—	—	△16,001	—	△16,001	—	△16,001
自己株式の処分	10	—	121	—	422	△62	481	—	481
配当金	12	—	—	△9,585	—	—	△9,585	△9,038	△18,623
連結範囲の変動		—	—	—	—	—	—	48	48
株式報酬取引	10	—	490	—	196	—	687	—	687
その他の資本の構成要素から利益剰余金への振替		—	—	20	—	△20	—	—	—
その他		—	—	—	—	—	—	△125	△125
所有者との取引額等合計		—	612	△9,566	△15,383	△81	△24,418	△9,114	△33,533
2021年6月30日残高		15,993	13,820	577,656	△69,955	△12,977	524,536	70,367	594,903

当第2四半期連結累計期間（自 2022年1月1日 至 2022年6月30日）

（単位：百万円）

	注記	親会社の所有者に帰属する持分						非支配持分	資本合計
		資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	その他の資本の構成要素	合計		
2022年1月1日残高		15,993	14,801	599,946	△68,646	△4,454	557,639	77,799	635,438
四半期利益		—	—	31,764	—	—	31,764	4,861	36,625
その他の包括利益		—	—	—	—	50,619	50,619	10,304	60,924
四半期包括利益合計		—	—	31,764	—	50,619	82,383	15,166	97,549
自己株式の取得	10	—	—	—	△2,936	—	△2,936	—	△2,936
自己株式の処分	10	—	223	—	1,832	△146	1,909	—	1,909
配当金	12	—	—	△10,731	—	—	△10,731	△9,175	△19,906
非支配持分との資本取引		—	△1,003	—	—	—	△1,003	5,086	4,082
株式報酬取引	10	—	469	—	200	—	669	—	669
その他の資本の構成要素から利益剰余金への振替		—	—	△655	—	655	—	—	—
所有者との取引額等合計		—	△312	△11,386	△904	510	△12,093	△4,089	△16,182
2022年6月30日残高		15,993	14,489	620,323	△69,550	46,675	627,929	88,875	716,804

(4) 【要約四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：百万円)

	注記	前第2四半期連結累計期間 (自 2021年1月1日 至 2021年6月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2022年1月1日 至 2022年6月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー			
税引前四半期利益		64,756	56,372
減価償却費及び償却費		18,789	20,104
受取利息及び受取配当金		△1,740	△1,649
支払利息		575	1,004
為替差損益 (△は益)		674	3,065
固定資産除売却損益 (△は益)		123	229
売上債権及びその他の債権の増減額 (△は増加)		6,832	8,923
棚卸資産の増減額 (△は増加)		△8,769	△13,463
仕入債務及びその他の債務の増減額 (△は減少)		5,534	△6,998
その他の流動負債の増減額 (△は減少)		△7,251	73
その他		△228	△480
小計		79,296	67,179
利息及び配当金の受取額		2,071	1,826
利息の支払額		△622	△1,019
法人所得税の還付額		1,644	49
法人所得税の支払額		△20,807	△18,588
営業活動によるキャッシュ・フロー		61,581	49,446

(単位：百万円)

	注記	前第2四半期連結累計期間 (自 2021年1月1日 至 2021年6月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2022年1月1日 至 2022年6月30日)
投資活動によるキャッシュ・フロー			
定期預金の預入による支出		△22,804	△37,757
定期預金の払戻による収入		31,185	49,588
有形固定資産及び無形資産の取得による支出		△15,883	△15,420
有形固定資産及び無形資産の売却による収入		58	18
長期貸付けによる支出		△14	△2,863
償却原価で測定する金融資産の取得による支出		△4,313	△603
純損益を通じて公正価値で測定する金融資産の取得による支出		△7,000	△7,000
その他の包括利益を通じて公正価値で測定する資本性金融資産の取得による支出		△11,080	△507
その他の包括利益を通じて公正価値で測定する負債性金融資産の取得による支出		—	△2,118
償却原価で測定する金融資産の売却及び償還による収入		—	1,000
純損益を通じて公正価値で測定する金融資産の売却及び償還による収入		3,600	10,100
その他の包括利益を通じて公正価値で測定する負債性金融資産の売却及び償還による収入		400	1,000
関係会社株式の取得による支出		△318	—
その他		25	20
投資活動によるキャッシュ・フロー		△26,144	△4,541
財務活動によるキャッシュ・フロー			
短期借入金の純増減額 (△は減少)		6,808	10,175
長期借入れによる収入		—	3,888
長期借入金の返済による支出		—	△717
リース負債の返済による支出		△2,664	△2,820
自己株式の取得による支出	10	△16,001	△2,936
親会社の所有者への配当金支払額		△9,581	△10,729
非支配持分への配当金支払額		△2,745	△1,925
ストック・オプションの行使による収入	10	481	1,909
財務活動によるキャッシュ・フロー		△23,703	△3,154
現金及び現金同等物に係る換算差額		4,278	12,742
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)		16,011	54,493
現金及び現金同等物の期首残高		199,522	187,547
現金及び現金同等物の四半期末残高		215,534	242,040

【要約四半期連結財務諸表注記】

1. 報告企業

当社グループは、ウェルネスケア関連商品・フェミニンケア関連商品・ベビーケア関連商品・Kireiケア関連商品等のパーソナルケア並びにペットケア関連商品等の製造及び販売を主な事業とし、アジアを中心に事業活動を行っております。当社グループは、アジア、中東・北アフリカ、南米などの新興各地域における、紙おむつや生理用品の需要の高まりに伴い、世界各地域で生産体制を強化しております。

当社は日本に所在する株式会社であり、東京証券取引所に上場しております。登記上の本社の住所は、愛媛県四国中央市です。

2. 作成の基礎

(1) 準拠する会計基準

当社グループの要約四半期連結財務諸表は、四半期連結財務諸表規則第1条の2に掲げる「指定国際会計基準特定会社」の要件を満たすことから、同第93条の規定により、IAS第34号に準拠して作成しております。

当社グループの要約四半期連結財務諸表は、2022年8月4日開催の取締役会により承認されております。

(2) 測定の基礎

当社グループの要約四半期連結財務諸表は、公正価値で測定される金融商品等を除き、取得原価を基礎として作成しております。

(3) 機能通貨及び表示通貨

当社グループの各企業の財務諸表に含まれる項目は、企業が営業活動を行う主たる経済環境における通貨（以下「機能通貨」という。）を用いて測定しております。当社グループの要約四半期連結財務諸表は、当社の機能通貨である日本円により表示しており、百万円未満を四捨五入しております。

3. 重要な会計方針

本要約四半期連結財務諸表において適用する重要な会計方針は、前連結会計年度に係る連結財務諸表において適用した会計方針と同一であります。

4. 重要な会計上の見積り及び判断

当社グループの要約四半期連結財務諸表の作成において、経営者は、会計方針の適用並びに資産、負債、収益及び費用の金額に影響を及ぼす判断、見積り及び仮定を設定しております。ただし、実際の業績は、これらの見積りとは異なる結果となる可能性があります。見積り及びその基礎となる仮定は継続して見直しております。会計上の見積りの変更による影響は、その見積りを見直した会計期間と将来の会計期間において認識しております。

なお、当社グループの要約四半期連結財務諸表における重要な会計上の見積り及び判断は、前連結会計年度に係る連結財務諸表と同様であります。

5. セグメント情報

(1) 報告セグメントの概要

当社グループの報告セグメントは、当社グループの構成単位のうち分離された財務情報が入手可能であり、当社グループの最高経営意思決定機関である取締役会が、経営資源の配分の決定及び業績を評価するために、定期的に検討を行う対象として決定しております。

当社グループは、パーソナルケア、ペットケア、その他の3つの事業単位を基本に組織が構成されており、各事業単位で日本及び海外の包括的な戦略を立案し、事業活動を展開しております。

したがって、当社グループは「パーソナルケア」「ペットケア」「その他」の3つを報告セグメントとしております。

「パーソナルケア」は、ウェルネスケア関連商品、フェミニンケア関連商品、ベビーケア関連商品及びKireiケア関連商品等の製造・販売をしております。「ペットケア」は、ペットフード関連商品及びペットトイレタリー関連商品等の製造・販売をしております。「その他」は、産業用資材関連商品等の製造・販売をしております。

なお、報告セグメントの会計方針は要約四半期連結財務諸表と同一であります。また、セグメント利益はコア営業利益（売上総利益から販売費及び一般管理費を控除した利益）であり、取締役会はコア営業利益に基づいて事業セグメントの実績を評価しております。

(2) 報告セグメントごとの売上高及び業績

報告セグメントごとの売上高及び業績は以下のとおりであります。

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2021年1月1日 至 2021年6月30日)					
	報告セグメント				調整額	要約四半期 連結財務諸表 計上額
	パーソナル ケア	ペットケア	その他	計		
外部顧客への売上高	325,364	48,587	3,009	376,960	—	376,960
セグメント間の売上高 (注)	—	—	21	21	△21	—
セグメント売上高合計	325,364	48,587	3,030	376,981	△21	376,960
セグメント利益 (コア営業利益)	54,514	6,949	320	61,783	—	61,783
その他の収益						1,980
その他の費用						△1,279
金融収益						2,957
金融費用						△684
税引前四半期利益						64,756

(単位：百万円)

	当第2四半期連結累計期間 (自 2022年1月1日 至 2022年6月30日)					
	報告セグメント				調整額	要約四半期 連結財務諸表 計上額
	パーソナル ケア	ペットケア	その他	計		
外部顧客への売上高	360,983	56,962	3,668	421,614	—	421,614
セグメント間の売上高 (注)	—	—	62	62	△62	—
セグメント売上高合計	360,983	56,962	3,730	421,675	△62	421,614
セグメント利益 (コア営業利益)	48,228	7,013	180	55,421	—	55,421
その他の収益						536
その他の費用						△1,635
金融収益						4,737
金融費用						△2,688
税引前四半期利益						56,372

(注) セグメント間の売上高は、市場実勢価格を参考にしております。

6. 収益

当社グループの売上高は、一時点で顧客に移転される財から生じる収益で構成されております。また、各報告セグメントの売上高は、連結会社の所在地に基づき分解しております。これらの分解した売上高は以下のとおりであります。

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2021年1月1日 至 2021年6月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2022年1月1日 至 2022年6月30日)
パーソナルケア		
日本	106,707	107,476
中国	53,252	52,727
アジア	122,079	147,239
その他	43,325	53,541
小計	325,364	360,983
ペットケア (注) 1	48,587	56,962
その他 (注) 2	3,009	3,668
合計	376,960	421,614

(注) 1. ペットケア事業は、主に日本及び北米地域（その他に区分される地域）における売上高であります。

2. その他事業は、主に日本における売上高であります。

7. 販売費及び一般管理費

販売費及び一般管理費の内訳は以下のとおりであります。

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2021年1月1日 至 2021年6月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2022年1月1日 至 2022年6月30日)
販売運賃諸掛	25,457	29,851
販売促進費	12,015	13,725
広告宣伝費	14,374	12,918
従業員給付費用	20,411	22,357
減価償却費及び償却費	5,366	5,448
研究開発費	3,932	4,111
その他	11,739	13,325
合計	93,293	101,735

8. 1株当たり利益

(1) 基本的1株当たり四半期利益

基本的1株当たり四半期利益及びその算定上の基礎は以下のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自 2021年1月1日 至 2021年6月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2022年1月1日 至 2022年6月30日)
親会社の所有者に帰属する四半期利益 (百万円)	39,963	31,764
親会社の普通株主に帰属しない四半期利益 (百万円)	—	—
基本的1株当たり四半期利益の計算に使用する四半期利益 (百万円)	39,963	31,764
普通株式の加重平均株式数 (千株)	598,525	596,398
基本的1株当たり四半期利益 (円)	66.77	53.26

	前第2四半期連結会計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年6月30日)	当第2四半期連結会計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年6月30日)
親会社の所有者に帰属する四半期利益 (百万円)	19,858	14,937
親会社の普通株主に帰属しない四半期利益 (百万円)	—	—
基本的1株当たり四半期利益の計算に使用する四半期利益 (百万円)	19,858	14,937
普通株式の加重平均株式数 (千株)	598,080	596,530
基本的1株当たり四半期利益 (円)	33.20	25.04

(2) 希薄化後1株当たり四半期利益

希薄化後1株当たり四半期利益及びその算定上の基礎は以下のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自 2021年1月1日 至 2021年6月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2022年1月1日 至 2022年6月30日)
基本的1株当たり四半期利益の計算に使用する四半期利益 (百万円)	39,963	31,764
四半期利益調整額 (百万円)	—	—
希薄化後1株当たり利益の計算に使用する四半期利益 (百万円)	39,963	31,764
普通株式の加重平均株式数 (千株)	598,525	596,398
希薄化効果を有する潜在的普通株式の影響 新株予約権 (千株)	492	159
希薄化後普通株式の加重平均株式数 (千株)	599,017	596,556
希薄化後1株当たり四半期利益 (円)	66.71	53.25
希薄化効果を有しないため、希薄化後1株当たり四半期利益の算定に含めなかった潜在株式の概要	—	—

	前第2四半期連結会計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年6月30日)	当第2四半期連結会計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年6月30日)
基本的1株当たり四半期利益の計算に使用する四半期利益 (百万円)	19,858	14,937
四半期利益調整額 (百万円)	—	—
希薄化後1株当たり利益の計算に使用する四半期利益 (百万円)	19,858	14,937
普通株式の加重平均株式数 (千株)	598,080	596,530
希薄化効果を有する潜在的普通株式の影響 新株予約権 (千株)	451	86
希薄化後普通株式の加重平均株式数 (千株)	598,531	596,616
希薄化後1株当たり四半期利益 (円)	33.18	25.04
希薄化効果を有しないため、希薄化後1株当たり四半期利益の算定に含めなかった潜在株式の概要	—	—

9. 金融商品

金融商品の公正価値

(1) 公正価値で測定する金融資産及び金融負債

当社グループは、公正価値の測定に使用されるインプットの市場における観察可能性に応じて、公正価値のヒエラルキーを、以下の3つのレベルに区分しております。

レベル1：活発な市場における同一資産または同一負債の無調整の公表価格

レベル2：レベル1に属さない、直接的または間接的に観察可能なインプット

レベル3：観察不能なインプット

当社グループが経常的に公正価値で測定している金融資産及び金融負債は以下のとおりであります。

(単位：百万円)

	前連結会計年度（2021年12月31日）			
	レベル1	レベル2	レベル3	合計
<金融資産>				
純損益を通じて公正価値で測定する金融資産				
債券	—	—	14,092	14,092
デリバティブ資産	—	1,135	—	1,135
その他	—	105	—	105
その他の包括利益を通じて公正価値で測定する資本性金融資産				
株式	31,115	—	1,094	32,210
その他	—	—	23	23
その他の包括利益を通じて公正価値で測定する負債性金融資産				
債券	—	12,639	—	12,639
合計	31,115	13,879	15,209	60,203
<金融負債>				
純損益を通じて公正価値で測定する金融負債				
デリバティブ負債	—	59	—	59
合計	—	59	—	59

(単位：百万円)

	当第2四半期連結会計期間（2022年6月30日）			
	レベル1	レベル2	レベル3	合計
<金融資産>				
純損益を通じて公正価値で測定する金融資産				
債券	—	—	10,985	10,985
デリバティブ資産	—	4,830	—	4,830
その他	—	110	—	110
その他の包括利益を通じて公正価値で測定する資本性金融資産				
株式	28,723	—	1,371	30,094
その他	—	—	23	23
その他の包括利益を通じて公正価値で測定する負債性金融資産				
債券	—	13,723	—	13,723
合計	28,723	18,663	12,379	59,765
<金融負債>				
純損益を通じて公正価値で測定する金融負債				
デリバティブ負債	—	499	—	499
合計	—	499	—	499

当社グループは、振替の原因となった事象または状況の変化が認められた時点で、公正価値のヒエラルキーをレベル間で振り替えております。

前第3四半期連結会計期間において、保有銘柄の完全子会社化（2021年10月1日付）に伴う上場廃止（2021年9月29日付）により、レベル1からレベル2への振替が行われておりましたが、完全子会社化（2021年10月1日付）に伴う株式交換による完全親会社株式の割当により、前連結会計年度末時点では、レベル2からレベル1への振替が行われております。

当第2四半期連結会計期間において、レベル1、2及び3の間の振替はありません。

公正価値の算定方法は以下のとおりであります。

債券

債券の公正価値は、取引先金融機関から提示された評価額を用いて算定しております。

提示された評価額は、市場金利及びクレジットスプレッドを加味した割引率のインプットを用いた割引キャッシュ・フロー法により算定しております。

デリバティブ資産、デリバティブ負債

為替予約及び直物為替先渡取引は、期末日の先物為替相場に基づき算定しております。通貨スワップは、取引先金融機関等から提示された金利等観察可能な市場データに基づき算定しております。

株式

市場性のある株式の公正価値は、期末日の市場価格を用いて算定しております。非上場株式は、類似企業比較法等、適切な評価技法を用いて公正価値を算定しております。

レベル3に分類された金融商品の連結累計期間中の増減は、以下のとおりであります。

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2021年1月1日 至 2021年6月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2022年1月1日 至 2022年6月30日)
期首残高	7,615	15,209
利得または損失合計	△394	△231
純損益(注)1	1	△7
その他の包括利益(注)2	△395	△225
購入	7,000	7,501
売却・決済	△3,600	△10,100
期末残高	10,621	12,379

(注) 1. 純損益に含まれている利得または損失は、純損益を通じて公正価値で測定する金融資産に関するものです。これらの損益は「金融収益」及び「金融費用」に含まれております。

2. その他の包括利益に含まれている利得または損失は、その他の包括利益を通じて公正価値で測定する資本性金融資産に関するものであり、連結包括利益計算書の「その他の包括利益を通じて公正価値で測定する資本性金融資産の純変動」及び「在外営業活動体の為替換算差額」に含まれております。

レベル3に分類されている金融商品は、主に債券及び非上場株式により構成されております。

レベル3に分類される金融商品の重要な観察可能でないインプットは、主に信用リスクや非流動性ディスカウントであり、公正価値は信用リスクや非流動性ディスカウントの上昇(低下)により減少(増加)します。なお、観察可能でないインプットを合理的に考え得る代替的な仮定に変更した場合の公正価値の増減は重要ではありません。

担当部門が公正価値測定の評価方針及び手続きに従い、各対象資産の評価方法を決定し、公正価値を測定しております。また、公正価値の測定結果については適切な責任者が承認しております。

(2) 償却原価で測定する金融資産及び金融負債の帳簿価額及び公正価値

各決算日における償却原価で測定する金融商品の帳簿価額と公正価値は以下のとおりであります。なお、帳簿価額が公正価値の合理的な近似値となっている金融商品(主として売上債権及びその他の債権、3ヶ月超の定期預金、仕入債務及びその他の債務等)については、次表には含まれておりません。

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2021年12月31日)		当第2四半期連結会計期間 (2022年6月30日)	
	帳簿価額	公正価値	帳簿価額	公正価値
<金融資産>				
債券	8,320	8,322	7,913	7,897
<金融負債>				
借入金	38,314	38,314	54,877	54,877

(注) 債券及び借入金の公正価値のレベルはレベル2及びレベル3であります。

公正価値の算定方法は以下のとおりであります。

債券

債券の公正価値は、取引先金融機関から提示された評価額を用いて算定しております。

提示された評価額は、市場金利及びクレジットスプレッドを加味した割引率のインプットを用いた割引キャッシュ・フロー法により算定しております。

借入金

借入金の公正価値は、類似した負債を当社グループが新たに借入れる場合に適用される利率を用いて、将来キャッシュ・フローを現在価値に割り引くことにより見積もっております。なお、変動金利によるものは一定期間ごとに金利の改定が行われているため、帳簿価額と公正価値は近似しております。

10. 自己株式

前第2四半期連結累計期間（自 2021年1月1日 至 2021年6月30日）

当社は、2021年2月15日開催の取締役会において、会社法第459条第1項第1号の規定による定款の定めに基づき、自己株式の取得を決議し、以下のとおり実施いたしました。

- | | |
|----------------|-----------------------|
| (1) 取得した株式の種類 | 当社普通株式 |
| (2) 取得した株式の総数 | 3,623,200株 |
| (3) 株式の取得価額の総額 | 16,000百万円 |
| (4) 取得した期間 | 2021年2月16日～2021年6月23日 |
| (5) 取得の方法 | 東京証券取引所における市場買付 |

また、当第2四半期連結累計期間において、ストック・オプションの権利行使に伴い165,900株、さらに譲渡制限付株式報酬制度に基づく譲渡制限付株式の割当てに伴い106,080株の自己株式を処分いたしました。

この結果、自己株式が618百万円減少、資本剰余金が121百万円増加しております。

当第2四半期連結累計期間（自 2022年1月1日 至 2022年6月30日）

当社は、2022年2月15日開催の取締役会において、会社法第459条第1項第1号の規定による定款の定めに基づき、自己株式の取得を決議し、以下のとおり実施いたしました。

- | | |
|----------------|-----------------------|
| (1) 取得した株式の種類 | 当社普通株式 |
| (2) 取得した株式の総数 | 686,800株 |
| (3) 株式の取得価額の総額 | 2,936百万円 |
| (4) 取得した期間 | 2022年2月16日～2022年6月30日 |
| (5) 取得の方法 | 東京証券取引所における市場買付 |

また、当第2四半期連結累計期間において、ストック・オプションの権利行使に伴い658,200株、さらに譲渡制限付株式報酬制度に基づく譲渡制限付株式の割当てに伴い100,360株の自己株式を処分いたしました。

この結果、自己株式が2,032百万円減少、資本剰余金が223百万円増加しております。

11. その他の資本の構成要素

その他の資本の構成要素の内訳は以下のとおりであります。

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2021年12月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2022年6月30日)
その他の包括利益を通じて公正価値で測定する 資本性金融資産の純変動	2,565	1,298
その他の包括利益を通じて公正価値で測定する 負債性金融資産の純変動	△19	△40
キャッシュ・フロー・ヘッジの公正価値変動	5	22
在外営業活動体の為替換算差額	△7,192	45,384
新株予約権	192	—
持分法適用会社における持分相当額	△4	9
合計	△4,454	46,675

12. 配当

前第2四半期連結累計期間（自 2021年1月1日 至 2021年6月30日）

(1) 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日
2021年2月22日 取締役会	普通株式	9,585	16.0	2020年12月31日	2021年3月8日

(2) 基準日が当第2四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期連結会計期間の末日後となるもの

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日
2021年8月4日 取締役会	普通株式	10,723	18.0	2021年6月30日	2021年9月2日

当第2四半期連結累計期間（自 2022年1月1日 至 2022年6月30日）

(1) 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日
2022年2月24日 取締役会	普通株式	10,731	18.0	2021年12月31日	2022年3月7日

(2) 基準日が当第2四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期連結会計期間の末日後となるもの

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日
2022年8月4日 取締役会	普通株式	11,328	19.0	2022年6月30日	2022年9月2日

13. 後発事象

該当事項はありません。

2【その他】

第63期（2022年1月1日～2022年12月31日）の中間配当については、2022年8月4日開催の取締役会において、2022年6月30日の最終の株主名簿に記録された株主に対し、次のとおり中間配当を行うことを決議いたしました。

- | | |
|---------------------|-----------|
| ①配当金の総額 | 11,328百万円 |
| ②1株当たりの金額 | 19円00銭 |
| ③支払請求権の効力発生日及び支払開始日 | 2022年9月2日 |

第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

ユニ・チャーム株式会社

取締役会 御中

PwCあらた有限責任監査法人
東京事務所

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 齊 藤 剛

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 本 多 守

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 谷 口 寿 洋

監査人の結論

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられているユニ・チャーム株式会社の2022年1月1日から2022年12月31日までの連結会計年度の第2四半期連結会計期間（2022年4月1日から2022年6月30日まで）及び第2四半期連結累計期間（2022年1月1日から2022年6月30日まで）に係る要約四半期連結財務諸表、すなわち、要約四半期連結財政状態計算書、要約四半期連結損益計算書、要約四半期連結包括利益計算書、要約四半期連結持分変動計算書、要約四半期連結キャッシュ・フロー計算書及び注記について四半期レビューを行った。

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の要約四半期連結財務諸表が、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」第93条により規定された国際会計基準第34号「期中財務報告」に準拠して、ユニ・チャーム株式会社及び連結子会社の2022年6月30日現在の財政状態、同日をもって終了する第2四半期連結会計期間及び第2四半期連結累計期間の経営成績並びに第2四半期連結累計期間のキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項が全ての重要な点において認められなかった。

監査人の結論の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。四半期レビューの基準における当監査法人の責任は、「要約四半期連結財務諸表の四半期レビューにおける監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、会社及び連結子会社から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

要約四半期連結財務諸表に対する経営者及び監査等委員会の責任

経営者の責任は、国際会計基準第34号「期中財務報告」に準拠して要約四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない要約四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

要約四半期連結財務諸表を作成するに当たり、経営者は、継続企業の前提に基づき要約四半期連結財務諸表を作成することが適切であるかどうかを評価し、国際会計基準第1号「財務諸表の表示」第4項に基づき、継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

監査等委員会の責任は、財務報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

要約四半期連結財務諸表の四半期レビューにおける監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した四半期レビューに基づいて、四半期レビュー報告書において独立の立場から要約四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に従って、四半期レビューの過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- 主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対する質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続を実施する。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

・ 継続企業の前提に関する事項について、重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められると判断した場合には、入手した証拠に基づき、要約四半期連結財務諸表において、国際会計基準第1号「財務諸表の表示」第4項に基づき、適正に表示されていないと信じさせる事項が認められないかどうか結論付ける。また、継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、四半期レビュー報告書において要約四半期連結財務諸表の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する要約四半期連結財務諸表の注記事項が適切でない場合は、要約四半期連結財務諸表に対して限定付結論又は否定的結論を表明することが求められている。監査人の結論は、四半期レビュー報告書日までに入手した証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、企業は継続企業として存続できなくなる可能性がある。

・ 要約四半期連結財務諸表の表示及び注記事項が、国際会計基準第34号「期中財務報告」に準拠していないと信じさせる事項が認められないかどうかとともに、関連する注記事項を含めた要約四半期連結財務諸表の表示、構成及び内容、並びに要約四半期連結財務諸表が基礎となる取引や会計事象を適正に表示していないと信じさせる事項が認められないかどうかを評価する。

・ 要約四半期連結財務諸表に対する結論を表明するために、会社及び連結子会社の財務情報に関する証拠を入手する。監査人は、要約四半期連結財務諸表の四半期レビューに関する指示、監督及び実施に関して責任がある。監査人は、単独で監査人の結論に対して責任を負う。

監査人は、監査等委員会に対して、計画した四半期レビューの範囲とその実施時期、四半期レビュー上の重要な発見事項について報告を行う。

監査人は、監査等委員会に対して、独立性についての我が国における職業倫理に関する規定を遵守したこと、並びに監査人の独立性に影響を与えると合理的に考えられる事項、及び阻害要因を除去又は軽減するためにセーフガードを講じている場合はその内容について報告を行う。

利害関係

会社及び連結子会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

(注) 1. 上記の四半期レビュー報告書の原本は当社（四半期報告書提出会社）が別途保管しております。

2. XBRLデータは四半期レビューの対象には含まれていません。

【表紙】

【提出書類】	確認書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の8第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	2022年8月5日
【会社名】	ユニ・チャーム株式会社
【英訳名】	UNICHARM CORPORATION
【代表者の役職氏名】	代表取締役 社長執行役員 高原 豪 久
【最高財務責任者の役職氏名】	該当事項はありません。
【本店の所在の場所】	愛媛県四国中央市金生町下分182番地 (上記は登記上の本店所在地であり実際の本社業務は下記の場所で行っております。) 東京都港区三田三丁目5番27号 住友不動産三田ツインビル西館
【縦覧に供する場所】	ユニ・チャーム株式会社本社事務所 (東京都港区三田三丁目5番27号 住友不動産三田ツインビル西館) ユニ・チャーム株式会社共振館 (愛媛県四国中央市金生町下分131番地) ユニ・チャーム株式会社大阪事業所 (大阪府大阪市北区中之島三丁目2番18号 住友中之島ビル) 株式会社東京証券取引所 (東京都中央区日本橋兜町2番1号)

1【四半期報告書の記載内容の適正性に関する事項】

当社代表取締役 社長執行役員 高原豪久は、当社の第63期第2四半期（自 2022年4月1日 至 2022年6月30日）の四半期報告書の記載内容が金融商品取引法令に基づき適正に記載されていることを確認いたしました。

2【特記事項】

確認にあたり、特記すべき事項はありません。